



TITLE:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 141

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 141. 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 1964, 141

ISSUE DATE:

1964-06-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186897>

RIGHT:

水族館月報

№ 141

1964年5月

5月の入場者数

一般		団体		有料合計	特別観覧
大人	小人	大人	小人		
65,655	840	24,040	2,040	92,575	

前年度比	1963	1964	増減
入場者総数	88,414	92,575	+4,161

水族館記事

- ◎ 3日 北浜の地引網より、マダラトビエイ（体長40cm）1個体が入槽したが、餌付きしないまま、13日に死亡。
- ◎ 4日 塔島東側岩礁で潜水採集を行ない、クマノミ、キヌバリ等を得た。クマノミは久しくこの附近の磯に姿をみせず、2年ぶりの採集である。
- ◎ 5日～25日 中水槽室各槽（№29～35）は、開放式で、しかも大量給水ができないので、これまで白点病の被害が最も大きかった。その対策として、№31・32・34の3槽に内式単独循環装置をセットし、単独戸過可能とした。
- ◎ 6日～15日 №24水槽のオオセ（4月30日入槽）が幼魚（17～18cm）9個体を産出した。この幼魚は、その後よく餌をたべ、元気である。
- ◎ 9日 近大養魚場より、ブリモドキの幼魚（全長5.7cm）が入槽。26日までに8.0cmに成長したが白点病のため死亡。
- ◎ 10日 雑賀崎一本釣漁師より、ハマダイ（全長50cm）1個体、ヒメダイ（15～19cm）15個体、ウメイロ（20～25cm）3個体を購入。

これらは、かなり深海性でスレに弱く、水槽での飼育が困難とされているが、試みに大型水槽（H・J）に収容してみた。ハマダイは翌日死亡。ヒメダイも月末までに10個体が死亡したが、ウメイロは全個体元気で、長期飼育できる見込みである。

- ◎ 12日 地引網より巨大なモヨウフグ（全長45cm）1個体が入槽。本種は老幼で体の斑紋が著しく異なる。幼魚はしばしば採集されるが、日本内地で成魚がとれるのは珍しい。
- ◎ 22日 田辺市江川港のエビ漕ぎ網漁師より、定期的に底生動物を購入することとし、その第1回として、シヤコ・テツボウエビ・テナガコブシガニ等が入槽した。
- ◎ 25日 餌料用のアサリ・オキシジミは、これまでR-2水槽で魚類と共に蓄養していたが、同槽の魚に白点病が発生したので、貝肉を与える魚類への感染を防ぐために、二枚貝専用の大型バット（110×70×15cm・開放式）を新設し、これに移収した。
- ◎ 31日 G水槽のタカアシガニ1個体死亡。飼育期間1年3カ月。これまでの死亡個体は、歩脚の大半を失って死に至るものが多かったが、この個体は、右第2歩脚を欠くのみで、摂餌状態もそれほど悪くは見えなかった。死因不明
- ◎ 5月の動物入手概況

1. 採集作業

日 時	採 集 場 所	方 法	人 員	主 な 目 的 動 物
4日午後	塔 島 東 磯	SCUBA	3	小 型 磯 魚
7日早朝	網 不 知 湾 内	1 本 釣	2	砂 地 の 魚 類
8日午後	海水浴場東磯	素もぐり	3	キヌバリ
12日 "	円月塔北磯	磯 採 集	3	潮間帯の動物
13日 "	"	"と素もぐり	5	" と小型魚類
18日 "	長 場	素もぐり	2	ウミウシ類
22日夕方	北 浜	"	1	モミシガイ類
27午後	塔 島 東 磯	SCUBA	3	小型磯魚

上記のほかに北浜地引網参加採集 7回

- 主な採集動物名（×印は1962年4月1日以降はじめての入槽動物）

無脊椎動物：ハナガサクラゲ・×カギノテクラゲ・サンゴイソギンチャク・

×トガリオウギガニ・シロウミウシ・×ヒメマダラウミウシ・×フタイロ
ニシキウミウシ・×オトメウミウシ・ウグイスガイ・ニシキヒザラガイ・
ハナイカ・ヒメコウイカ・スナダコ・タコノマクラ・アカオニナマコ・
シロボヤ・ベニボヤ。

魚 類：マダラトビエイ・ヒバシヨウジ・ハマトビウオ・ハナハゼ・キヌバ
リ・クマノミ・ミツボシクロスズメ・カゴカキダイ・オニハタテダイ・
ナガハギ・アオサハギ・イシガキフグ・モヨウフグ・ハナミノカサゴ。

2. 購 入

先月にひきつづき、雑賀崎一本釣漁師よりの入槽が主であつたが、下旬には
江川エビ漕ぎ網より、砂地の動物も多く集りだした。

○ 主な購入動物名

無脊椎動物：×ベニコエダ・シヤコ・テツボウエビ・×サメハダヘイケガニ
・×コブカラツパ・×ツノナガコブシガニ・アサヒガニ・×ケブカエンコ
ウガニ・×ツキヒガイ・×キンチャクガイ・×キンシバイ・×アラレガイ
・×ウズラミヤシロ・メヒカリイカ。

魚 類：ハマクマノミ・ハナビラクマノミ・ミスジリュウキユウスズメ
・×スミツキトノサマダイ・×ロリカリア・×フアイアマウス（以上外地
産）×ハナアナゴ・モンガラドウシ・×アカタチ・アカアマダイ・
ルリハタ・ホウキハタ・×サクラダイ・ヨコスジフエダイ・×トカゲゴチ
・クロウシノシタ・×ゲンチヨ。

◎ 飼 育 状 況

中旬より水温が20°Cを越えたので、厩31・32・34・35・A・B
・J・Kの各槽に白点病が統発したが、中水槽室の3槽（今月新設した内式単
独循環装置は、まだ汙過細菌のはたらきが弱い）をのぞき、早期治療が効き、
被害はわずかであつた。飼育動物種数は、次表のように、魚類、無脊椎動物と
もに、これまでの記録を更新した。

5月31日現在、飼育中の動物は、総計476種、3646個体以上で、そ
の内訳は次の通り。このうち、観覧水槽に飼育、展示中の動物は445種、
3215個体以上。

カイメン類 3種 13個体	ゴカイ類 7種 16個体	イカ類 3種 8個体
ヒドロ虫類 3 " 10 "	カブトガニ類 1 " 1 "	タコ類 3 " 6 "
ハチクラゲ類 一 " 一 "	フジツボ カメノデ類 4 " 20 "	ウミダ類 3 " 13 "
ウミトサカ類 7 " 16 "	エビ類 17 " 214 "	ヒトデ類 10 " 207 "
ヤギ類 6 " 48 "	シヤゴ類 2 " 30 "	クモヒトデ類 7 " 16 "
ウミエラ類 1 " 4 "	ヤドカリ類 9 " 111 "	ウニ類 12 " 134 "
イソギンチャク類 6 " 77 "	カニ類 45 " 164 "	ナマコ類 6 " 51 "
イシサンゴ類 10 " 53 "	アメフラシ類 14 " 41 "	ホヤ類 5 " 25 "
ツノサンゴ類 1 " 1 "	二枚貝類 22 " 409 "	軟骨魚類 11 " 78 "
ハナギンチャク類 1 " 12 "	巻貝類 38 " 525 "	硬骨魚類 213 " 1324 "
ヒモムシ類 1 " 1 "	ヒザラガイ類 2 " 3 "	カメ類 3 " 15 "

資 料

5月の気象（午前9時観測）

第1水槽室（水温・比重は1624水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：26	7	9	10
室温（°C）	$\frac{18.7 \sim 21.8}{20.0}$	$\frac{18.9 \sim 22.0}{20.5}$	$\frac{19.8 \sim 23.8}{21.8}$
水温（°C）	$\frac{20.00 \sim 22.14}{20.90}$	$\frac{20.36 \sim 22.20}{21.25}$	$\frac{21.00 \sim 23.00}{22.10}$
比重（15°C）	$\frac{24.96 \sim 25.90}{25.35}$	$\frac{25.33 \sim 25.60}{25.42}$	$\frac{25.21 \sim 25.65}{25.43}$

第3水槽室（水温）

H水槽（°C）	$\frac{20.6 \sim 22.0}{21.1}$	$\frac{21.6 \sim 22.5}{21.9}$	$\frac{21.7 \sim 23.6}{22.8}$
T-8水槽（°C）	$\frac{20.2 \sim 22.1}{21.0}$	$\frac{20.9 \sim 22.0}{21.4}$	$\frac{21.5 \sim 23.2}{22.3}$

海水取入口

水温（°C）	$\frac{20.28 \sim 23.36}{21.65}$	$\frac{21.00 \sim 24.00}{22.21}$	$\frac{21.94 \sim 23.76}{22.85}$
比重（15°C）	$\frac{25.07 \sim 25.62}{25.47}$	$\frac{25.04 \sim 25.67}{25.49}$	$\frac{25.17 \sim 25.76}{25.51}$

昭和39年6月15日（第141）

編集兼発行者 市 川 衛

発行所 市都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話（白浜）2047・3515